

《第7回演奏会》「バッハとコラール」に寄せて



カッピング講演会
／講師
磯山 雅

国立音楽大学教授、日本音楽学会会長。専攻はバッハを中心とするドイツ音楽史。主要著作に『マタイ受難曲』『バッハ／カンタータの森を歩むI、II、III』(東京書籍)、『J.S.バッハ』(講談社現代新書)、『バロック音楽』(NHKブックス)、『モーツアルト／二つの顔』(講談社選書メチエ)、『バロック音楽名曲鑑賞事典』『モーツアルト=翼を得た時間』(講談社学術文庫)、『救済の音楽』(音楽之友社)などがある。



【指揮者】
三澤 洋史

新国立劇場合唱団指揮者。1999年より2003年まではバイロイト音楽祭に祝祭合唱団の指導スタッフの一員として活躍。バッハには深く傾倒しており、「21世紀のバッハ」を追求するためには2006年1月、「東京バロック・スコラーズ」を立ち上げ、音楽監督に就任。これを核に「今」を生きる人と音楽の輪を広げている。



Bach und Chorale

合唱：東京バロック・スコラーズ

管弦楽：東京バロック・スコラーズ・アンサンブル

三澤洋史のもとで「21世紀のバッハ」を追求しようという志を共有する合唱団と管弦楽団。合唱団はオーディションによって選ばれたアマチュア、アンサンブルは一流のプロ奏者からなる。演奏のみならず、公開レッスンや講演会など、多角的な活動を行っている。また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。

「団員募集 — バッハと一緒に歌いませんか？」

東京バロック・スコラーズでは2012年3月、マタイ受難曲の演奏会を企画しており、私たちと一緒にステージを作り上げていく仲間を募集する予定です。詳しくはホームページのオーディションページをご覧下さい。練習のご見学も歓迎です。



ソプラノ／
藤崎 美苗

岩手大学教育学部卒業、東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程独唱専攻修了、大学院古楽科で学ぶ。バッハを始めとした宗教曲やリートを中心に活躍している。「結婚カンタータ」をジョシュア・リフキンと共に演じた。またバッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして多くの公演や録音に参加し、ドイツ公演「口短調ミサ」及び「マニフィカト」、日本では「マタイ受難曲」、メンデルスゾーン公演等でソリストを務めている。



テノール／高橋 淳

東京音楽大学卒業、同大学院修了。「95年ザルツブルク・モーツアルテウム音楽院夏期アカデミー修了。二期会オペラスタジオ第43期マスタークラス修了。オペラでは新国立劇場、二期会の常連として、舞台に欠かせないテノールとして多数の公演に出演している。コンサートでは、国内外の著名指揮者の下、国内主要オーケストラの定期演奏会他に出演し、幅広いレパートリーを歌っている。二期会会員、東京室内歌劇場会員、日本演奏連盟会員、東京音楽大学非常勤講師。



アルト／
渡辺 玲美

活水女子大学音楽学部声楽学科卒業。「98年～'07年びわ湖ホールに専属歌手として在籍。同劇場では、ブリテン「小さな煙突そうじやさん」、ラヴェル「子供と魔法」、トマ「ミニヨン」などでタイトルロールを演じる。また、兵庫県立芸術文化センターでは佐渡裕プロデュースオペラ「ヘンゼルとグレーテル」、ヘンゼル、「メリーウィドウ」オルガ役で出演。新国立劇場ではヴェルディ「アイーダ」巫女役などで出演している。

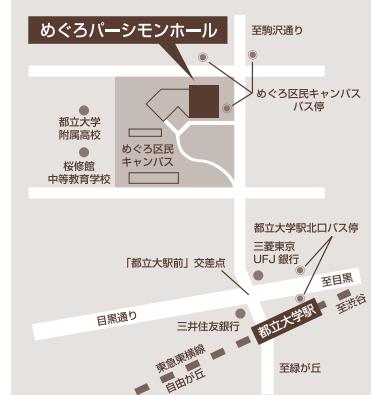


バス／
大森 いちえい

昭和音楽大学声楽科首席卒業。国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻(オペラ)修了。オペラ「ドン・ジョヴァンニ」、「フィガロの結婚」、「椿姫」、「ポッペアの戴冠」、「こうもり」等に出演。この他「メサイア」、「カルミナ・ブランナ」、「モーツアルト、ヴェルディ、フォーレ等の「レケイエム」、バッハの「カンタータ」、「ミサ」、各「受難曲」等の幅広いレパートリーをもつ。新国立劇場メンバーとして数々のオペラに出演中。



めぐろパーシモンホール

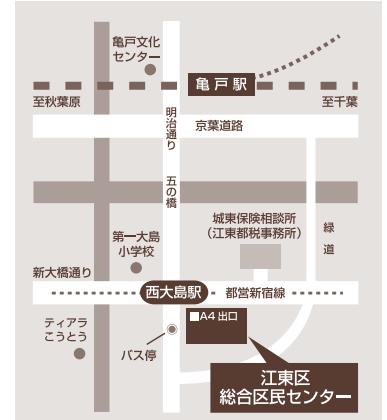


〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-1

TEL 03-5701-2924

※駐車場は駐車台数に限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。

江東区総合区民センター



〒136-0072 東京都江東区大島4-5-1

TEL 03-3637-2261